



TITLE:

七月の星の空

AUTHOR(S):

---

CITATION:

七月の星の空. 天界 1928, 8(88): 318-319

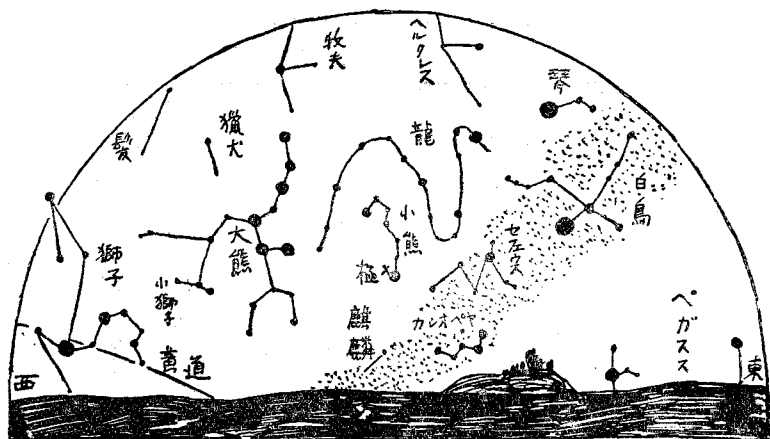
ISSUE DATE:

1928-06-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161313>

RIGHT:

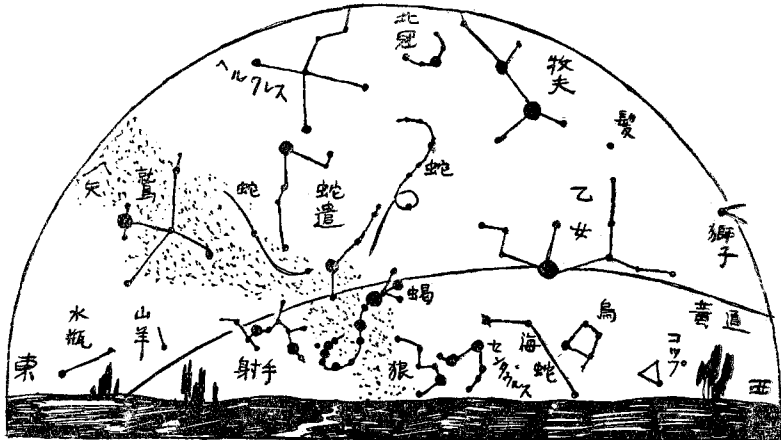


### 七月の星の空(北天)

#### 恒星界

梅雨があけると、もうすっかり夏である。日中の雲の峯々、宵の蝸星座とは、共に夏の來た事を示す最も印象の深い姿である。昔時、支那で蝸座ア星が夕方南中するのを見て夏の真中とし、季節を知る目安とした事は尤な事ださうなづかれる。蝸の西にはまだ乙女が見られ、その南に海蛇、鳥、コップ等の今までおなじみだった星座が、西南の地平線に近い。銀河は東よりに南北に流れ、其の中には射手、鷲、白鳥、セフェ、カシオペア等の夏の星座が浸つてゐる。天頂には北冠がきれいな形をして座を占め、その東西にヘルクスと牧夫が對峙してゐる。ヘガスが東の空に今まさに登らんとし獅子は西に沒せんとしてゐる。北斗は最も親しみのある位置に來て北極を指し、龍は長いからだをくねらせて小熊を取りまいてゐる。

琴座のベ星は標本的變光星である。双眼鏡があれば尙結構であるが、なくとも十分觀測は出来る。素人の稽古臺として最適の變光星である。週期は長からず、短からずの約13日であるから、毎日觀測してもその度に興味ある變光を示し、而も1日や2日缺測しても光度曲線を畫くに左まで不便ではない。變光範圍は3.5等から4.1等までで、月夜でなければ肉眼での觀測は容易である。比較星としては琴座α星——光度3.80等、同カ星——光度4.34等、同テ星——光度4.34等及び白鳥座α星——光度2.97等、等は適當であらう。今は丁度此の星は夕方には天頂に近く、觀測する位置から云つても好都合である。



## 七月の星の空(南天)

### 太陽系

太陽 中旬まで巨蟹宮にあり、23日に獅子宮に侵入する。星座は月半ばまで双子座で、18日より蟹座にある、4日午後7時地球は太陽より最も遠ざかる。

月 満	3日午前11時49分	新月	17日午後1時36分
下弦	10日午後9時16分	上弦	24日午後11時38分
近地点通過	15日午前0時	遠地点通過	26日午後10時

水星 11日に留となりそれより順行となる。21日西方最大離角(20度)。其頃の光度0等、視直径8秒(角度)、双子座が星とエプ星との中間。

金星 2日に太陽と外合、従つて殆んど此月も観測は絶望である、併し月末には西方に太陽没後半時間程の間、やつと見える。

火星 暁の星、太陽より5時間早く登り、光度正1等、視直径7秒(角)。星座は牡羊座シ星の近傍、次第に観望には適する様になつて来る。

木星 暁の星、火星と4日に合となり、月末になる程太陽より早く登り、月末には早朝に南中する程になる、星座は牡羊座、光度正1等。

土星 宵の星、まだ今月も観望にはよい、星座は蛇遣座ア星の北東、光度正1等、視直径16秒(角)。1日午前7時16分と28日正午とに月と合。

天王星 夜半出現、春分点に近い、光度6等。

海王星 宵の星なれど次第に太陽に近づく、位置は獅子座、光度8等。